

西多摩医師会報

第111号 昭和57年1月 蘇春号



初冬の蓼科 福生市 内山 大画

目 次

時 論

年頭にあたり……………瀬戸岡 進… 2

文芸・随筆

和紙の魅力……………米山 秀雄… 3

「祈り」……………松原 貞一… 3

短歌…新春随想……………小泉 新策… 5

事業部だより

公衆衛生だより……………松原 貞一… 5

計 報……………百瀬 政雄… 6

医師会日誌…………… 7

あとがき…………… 7

時 論

年 頭 に あ た り

会長 瀬 戸 岡 進

昭和57年の新春を迎え、会員諸先生におかれましては、ますます御清栄のことと存じ上げます。一段ときびしい昨今の医療環境の中におきまして、新たな御心構で臨まれることと拝察致します。

昨年は色々の事がございました。3月1日には長らく継続審議となっていた保険法改正案が施行されましたが、健保本人の一部負担金が800円になったという単純なことではなく、「保険医療機関に対する指導、監査の徹底」、「医療法による医療監視の徹底」など、この法律改定の狙いは、これら附帯決議にあるといっても過言ではないと思います。

6月1日には社会保険診療報酬点数改正があり、今まで3年有余据置かれていたことによる物価、人件費の上昇にみあう診療報酬の増額はみられず、同時に行われた薬価基準の引き下げが、これをなお一層深刻なものとし、再改正を願う声が大となっております。

7月10日臨時行政調査会の第1次答申が発表され、9月11日都医代議員会で老人保険法案反対決議を行い、10月27日老人保健法案反対東京都医師大会を開催したにも拘らず、医療費の抑制と、医療の官僚支配を目的とし、老人の権利を押し、医療にたずさわる医師の主体性を否定しか

ねないこの法案も、11月13日遂に衆議院本会議で可決され、現在参議院に送付され審議中であります。

このような難局に際し私達は、学術、医療専門集団としての使命と誇りを持ち、医の倫理を高揚し、自浄作用に心掛けると共に、地域住民の信頼をより大きく持続することが大切なことは言うまでもありません。そのためにも各自自治体との関連をより緊密にしながら、西多摩地区医療懇談会、西多摩地区保健衛生協議会の機構を十分に活用し、地域医療における各種事業の円滑な遂行をはからねばならないと思います。

そして本年4月1日から、休日診療、休日準夜診療事業が自治体移管となる予定ですし、又新たに市町村主体により行われる、1才6ヶ月児健診も同時に始まります。このような仕事は年を追うごとに確実に増えてまいりますし、他方老令化社会の到来、医師急増の問題等私達をとりまく情勢は、一段とむずかしくなっております。こういう時期でありますので、会員各位の一層の御理解と御協力を願うこと切でありまして、これがひいては医師会の発展にもつながると思いますので、宜敷くお願い申し上げますと同時に、皆様の御健康を祈念し、新年のあいさつと致します。



文芸・随筆

和紙の魅力

米山秀雄

太閤記に出てくる矢作川の上流に小原村という寒村があった。一時人口も4,000人近くまで落ち込んだ過疎の村で、昭和47年には集中豪雨で12人が死亡したこともある。この村には古くから和紙の漉き方が伝えられていた。戦争中ここに疎開していた工芸家故藤井達吉翁の指導で美術工芸和紙として新生し、今は和紙の観光村として年に3~4万人の人がおとずれる。かつて翁の指導を受けた山内一生とか、小川喜数等すぐれた紙工芸作家が活躍している。

もう20年以上になるが、小原村に行ったことがある。藤井先生はすでに居られなかったが、その指導を受けた人達がぼつぼつ日展で活躍し始めていた頃であった。トヨタ自動車本社の病院長の佐々木重夫先生、岡崎市立病院長の故中西正雄先生、岡崎高等学校長の浅岡美徳先生等々「椿会」（岡崎市在住の絵画愛好家の会）のメンバーで和紙を漉きに行った。当時は全くの寒村で、新緑の頃だった。

コウゾを綿のようにして水に混ぜた紙料と、トロアオイの根から作ったのりを調合してどろどろにしておいて、木枠に網を張ったものに流し込み、そこに指で字を書いたり、絵を書いたり、又は色ぞめした線状のコウゾを思い思いの模様において、その上にもう一度どろどろを流し込んで天

日で乾燥して和紙をしあげた。その時私は蝶を描いたように思う。

近頃は小原村は「美術和紙のふるさと」として知られている。素人に美術和紙のつくり方を教えてくれる「和紙工芸館」が出来ている。私達が線状のコウゾをちぎっていたのとはちがって、絵の具がわりのパルプ溶液をスポイトで流し込んでかく。誰にでも簡単に出来るので和紙愛好家や婦人会、老人会の人々が研修に行く。

和紙とのつながりはそれ以来なかったが、5年くらい前に家内に趣味として和紙のはり絵をするようにすすめたのが和紙との再会で、近頃では日本各地の和紙を集めている。

始めの内は絵心がないからだめだとしりごみしていた家内も、鉄をつかわずにちぎった和紙の持つ日本的な味が、自然に色々な面をつくってくれるので、次第に絵らしくなって来て熱心になった。多くの人が手引書等を出版しているが、何にもとられずに、自分なりにやるようにすすめたら大分上達して来た。芸ごとだから奥は深いだろうが、趣味として楽しみながらやるには健康的でよい。デッサンも何も出来なかった人が驚く程の絵を創造することが出来るのは、和紙の持つ特性に負うところが多いようだ。

「祈り」

松原貞一

「何でそんな余計なことなされたのですか？」
自覚症状は何もなかったが、友人の外科医に話のついでに直腸診をやってもらった折、前立腺に硬いものがあり一度調べてもらった方がよい、ということになったそうである。実際それは余計なこと所ではなく、早期発見、早期治療が癌療法の鉄則であれば、医師としてはむしろ卒先して範を垂るべきことでさえあった。

「よい薬が出来ているではないですか。前立腺なら癌だって心配することないですよ」

先生も私もお互いに内科医であれば、事前立腺に関しては正に生兵法である。私が開業の際大変世話になった恩人も、前立腺癌で10数年前睾丸摘除を行えば、今もホルモン剤を呑んではいるが、今年80年カクシャクとしている。先生もう駄目だ、金玉抜かれちゃったヨ、アッチの方はもうど

(4)

うでもよいのだが、重心がとれなくて真直ぐ歩けやしない等といった冗談が記憶に残っていた所為もあり、前立腺癌など気にする程のことはないという先入観が強すぎた。専門医の意見もあって、先生は女性ホルモンの服用を始められ、見えざる敵に対して攻撃を開始された。暫くすると乳首が真黒になり、確かに薬が体中に滲み渡っている証しは見えて来たが、元々自覚症状はなかったのに、標的物に対して果して効果を発揮しているか否か、先生自身には全く判らなかつた。数ヶ月の服用後再び専門医の診察をうけた折、腫瘍は大きき硬きとも全く変わっていないとのことで、出来たら生検をという話が持ち出されて来た。女性ホルモンを続けると乳癌や心筋梗塞のリスクが増大するという話もあり、先生の脳裏にも「手術」という考えが走り抜けたようである。慎重を期した先生は、更に有名な老大家の診断を乞うたが、要生検という意見には変りはなかつた。折悪く京都の湯川博士が逝かれ、その病名が前立腺癌であったこともあり、迷っていた生検の話は急に具体的となり、第一回目の入院となった。お見舞いに何うと、先生の長軀を横たえたベッドの一隅から、ビニール管を伝わって真赤な尿が流れ落ちていた。組織検査のために採り出された9ヶ所からの細胞が総てクラスⅠということであれば、問題は一挙に解決流れは変り不安は雨散霧消する筈であった。先生の願いと祈りにも拘らず、結果はその内の僅か一枚ではあったが、悪性を示唆する細胞の一群があることが知らされた。流れは変わることもなく、更に勢いを増して来た。専門医らの意見も、一致して手術の方へ向かって行った。前立腺の全摘、事によれば睾丸摘除もと覚悟を決められ、秘かに机の中迄整理された先生は、今回は母校の泌尿器科を選び再びベッドの人となった。

「妙な話になって来たよ」

と些か検査疲れの見える先生は言う。最近の学説によればと、後輩の教授はいったそうである。前立腺癌は尿道附近から発生することが多いので、尿道を含めた全摘が必要となり、後に尿道形成という大変厄介な問題が残って瘻孔となる頻度が非常に高い由。従って最近では転移先の手術のみで、本元の前立腺は放射線療法にまかせるのが常識になっているというのである。

「だって老大家まで全摘をとすゝめられたそうで

はないですか」と私。

「だから妙な話になって来たといったんだよ」

と先生。検査はし烈を極めたという。連日の禁食採血、ルーチンの検査はいうに及ばず、バルーンが挿入され生検診が刺され、在るか無きかの転移巣を求めてレ線・超音波・シンチ・CT・リンパ管造影、遂には血管造影までが行なわれた。

「こんな検査をしていては、他所の癌が見つかるのではないか」とか、

「こんな検査の請求が出たら、俺なら先ず査定の対象にする」

等とただ事ならぬ発言がもれて来る始末。結局リンパ管造影で一部のリンパ腺が造影されず、これ以上の説明は試験開腹以外にないという医師団の結論。それなら初めからやってくれば、こんな痛い思いもしなくてすんだのに、と先生。これ迄多くの患者にも勧めて来た手術、手術を恐れていると誤解されるのも心外であり、結局は無影灯下に搬ばれる羽目となった。医療とはこんなものなかも知れないが、患者にとっては正に狙いの上の鯉、流れに竿さすなど大学のOBの重鎮である先生にしてさえ不可能な御様子。心身共に大きな代償を払って、やっと異常がないというお墨付きを頂戴することが出来た。人事を尽して天命を待つというが、現代医学は天命などという不確実なものに賭をするようなことはないようで、完璧を期す為切りきざんでも確認をとろうとした。先生の患者でもある或る土建業の社長は、数年前から前立腺が硬い硬いといわれながらも、薬ものまず生検もされず試験開腹の話などないまゝ経過をみられている。昨年は大産で些か元気がなかったが、今年もう大きな顔をして先生の前に現れている。過ぎる程人事を尽された先生、些か天命を当てにし過ぎているかのような社長、何れがよいのか神のみぞ知る所である。

放射線の照射が始まった。回を追うにつれて予想通りの副作用が現れて来た。庇を貸して母屋を盗られることを恐れた先生は、恐る恐る後輩の教授に放射線の減量を願い出たが、勿論教授の聞き入れられる所ではなかつた由。予定の照射が予定通り終了した。総てが終り貴殿は蘇えられたと肩を叩かれて、先生は病院の門を出た。真夏の暑い日であった。先生が生検をうけることになった日は。あれから6ヶ月、悪夢のような月日が流れた。

幾何かの手負いを受けながらも、先生は再び仕事を始められた。人事が総て尽された後、今先生のために何か出来ることがあるとすれば、それは祈りを捧げることである。先生の為秘かに私も祈り

続けている。先生の肉体に施された医療が完璧であったことを、そして新しい年と共に先生が本当に蘇えられることを。

短歌

新春随想

小泉新策

除夜の鐘鳴りやみつればほのぼのと
新玉の気配満ちみちて来ぬ

紺碧に澄み渡りたる大空の
東の方やはや赤く染まりぬ

並び立つ遠山脈のそぎへには
赤き富士ヶ嶺雲ゐに浮かびて

初日の出光芒まばゆく地平より
昇りのぼりて一日や始まる

日の出には森羅万象生きいきて
朝の大きに廻へるかも

人の世もこの暁の素晴らしく
栄えあるごとに生きてしものを

四季は巡り生死を刻む一里塚
つとめ励みて悔なからめや

今にして為すこと何か言ふことの
如何にあるべき胸にたたみて

事業部だより

公衆衛生だより

松原貞一

1 学校における結核検診の変更

昭和49年の法改正後も、結核は死亡率・発病率共に減少の一途をたどっている。公衆衛生審議会はこのような点を総合的に考慮し、早期発見による結核予防上の効果と放射線被曝による危険性のバランスを検討、若年層における定期の健康診断を次のように改めるよう答申を出した。即ち従来小学校は1年、中学校は2年、高校は1年2年3年と毎年実施していた全員の定期健康診断を、高校は2年3年を廃止して1年入学時のみとし、中学は2年を1年とすることになった。従って中学校においては、来年度のみ1年と2年の2学年にツ反・BCG接種等の健診が行なわれ、以後は

1年入学時のみということになる。なお小学校2年は前年度BCG接種をうけたもの、小4・中2・中3・高2・高3にあっては結核発病のおそれの大きいもの、例えば前年度の定期健診でツ反強陽性の者等に対しては特別に定期の健診を行なうという考え方は従来通りである。

2 ツベルクリン反応の判定

昨年春瑞穂町で実施された乳幼児を対象とした結核定期健診において、ツ反を行なった幼児280名の中18名が自然陽転と判定された。今回の公衆衛生審議会の答申にも「乳幼児期の最初のツ反で陽性率が数%をこえる等結核集団感染が疑われ

(6)

た場合保健所と協力体制をとり、接触者検診等定期外検診を適用」とあり、瑞穂町役場は福生保健所に検討を依頼した。福生保健所で陽転者18名全員にツ反を再検した所、その内の9名が陰性5名が疑陽性4名のみが陽性という結果が出され、役場当局は困惑の様様。元来ツ反の判定には不明瞭となる因子が多く、判定者によっても或る程度の違いは予測されるが、予想外に大きな喰い違いが出た。BCG接種・レ線撮影などの事後措置の

ことを考えると、見過ごせない問題がある。

3 保健所長の移動

30年の永い間西多摩を中心に保健所行政を担当されていた福生保健所長の前田先生が、昨年11月で退職された。新福生所長には前五日市保健所長の末和夫先生が、五日市所長には前福生保健所予防課長の大友伸子先生が栄転された。

計 報

今回医師会より故進藤利雄先生の追悼文を書くよう依頼を受けまして、私は筆不精なので再三お断り致しましたが、たつてのお話で筆をとりました。

先生は大正11年6月18日、進藤利宜先生の御長男として生を受け、府立二中を経て慈恵医科大学を昭和25年に卒業され、同大学薬理学教室に入室、30年学位を授与なされました。その後国立の根岸病院に約10年間勤務され、47年大久野病院を開設、院長として御活躍なされておりましたが、本年春不幸にも肺癌に罹

られ、薬石効なく11月17日幽明境を異にすることとなりました。まことに痛恨の極みであります。

先生は永年青梅医師会の会計を担当し、又、西多摩医師会の副議長として、その温厚篤実なお人柄は、全医師会員の信頼を得られ、医師会のまとめ役として将来を嘱望されておりましたが、まことに残念です。先生のまことに青梅人らしい寡黙にして中庸のとれた発言は、青梅人のなかに永く継承されることをこい願い、心から先生のごめい福を御祈りして筆をおきます。

又々香西先生の追悼文を書くことになりました。私にとっても誠に多事多難な年となりました。皆様も健康に御留意せられますよう御願ひ致します。

香西盛長先生の略歴は、明治35年日本画家香西治平氏の御次男として岡山市に生を受け、四国松山の比陽中学をへて、東京医専を卒業されました。その後陸軍軍医として入隊、陸軍軍医学校を卒業、卒業後は、宇都宮、この台、豊橋、浜松等の各陸軍病院に配属され、昭和12年北京に出征、外地で、航空医学(酸素発生)の研究を認められ、立川の航空技術研究所に入所、終戦をむかえられました。昭和20年青梅市二俣尾に開業、爾来36年地域住民より信頼と敬慕を受け、又医師会においても、西多摩医師会の副会長、青梅医師会会長を歴任せられまし

た。又三師会の会長(之は昔厚生省の圧力をはねのける為に医師会が保険医総辞退をした際、歯科医師会と、薬剤師会が、之に協力した事がありました。その後も強大な政治圧力に対抗する為にも緊密な連携を持つ必要がある、又地域住民に、無報酬で奉仕活動をする事が今後の医師会のためにも大事なことであるとする考えが存続している会)を昨年迄、永年に亘って活動されておられました。先生の冷静にして、適確な判断力は、我々後輩の深く信頼する所でありました。不幸病を得、12月3日永眠せられました。まことに痛恨の極みであります。我々も、先生の意を体し、医師会のため努力する覚悟でありますから、先生の御魂安からんことを切に御祈り申し上げる次第です。

(記 百瀬 政雄)

医師会日誌

医療機関数 146 病院 22
診療所 124

会員数 238 A会員 135
B 〃 103

会 議

12月 2日 西多摩地区医療協議会
3日 総務会
5日 臨時総会
7日 整備会
〃日 理事協議会
11日 会報委員会
16日 総務会
22日 移動理事会

役員出張

12月 4日 三多摩広報連絡会
〃日 都医調査担当理事連絡会
9日 五日市保健所定例会
24日 都医国保担当理事・国保指導者
合同会議

会員通知

- 56年度医療関係調査の実施について
- 「日本BCG基金」なる団体のキャンペーン活動との無関係について
- 社保診療報酬振込銀行の変更について
- 会報
- 56年度第2回臨時総会結果報告
- 療養の給付に関する取扱について
- 国鉄共済組員証等の更新について
- 医師会館林館のお知らせ

退会々員

氏名 香西盛長
(昭和56年12月3日死亡)

住所 青梅市二俣尾4-1115 香西病院

氏名 進藤利雄
(昭和56年11月17日死亡)

住所 青梅市青梅66 大久野病院

氏名 井草秀樹
勤務先 阿伎留病院

氏名 増田道彦
勤務先 青梅市立総合病院



あ と が き

明けましておめでとうございます。年末の何か落ち着かぬとき本号に御寄稿いただきました先生方に深く感謝申し上げます。表紙の油絵は、未公開未発表の貴重な新作を内山先生自ら写真にまでしてくださり、御蔭様で新春の1ページを彩ることが出来ました。扱って脚光を浴びました会報編集委員会その後の一端を披露して、諸先生の御休心を願いたいと思います。私達編集委員は去る12月11日青梅の和田市で、延々5時間に亘り終始などやかな新年号の編集を兼ねた忘年会をもちました。残念な事に、いつも会議のときなど皆の意見を充分すぎる程聞いて居てズバリ言葉少なに名案を吐露する菅井先生、109号名前洩れ若衆達の怨恨をうち晴らしてくれたプロの脚本家も顔負けしそうなあとがき110号(番)の植田先生、還歴すぎの風雲児を相手に109号冒頭文掲載阻止のため、最後まで説得に尽力し、あきれかえってうち果てた好漢川辺先生の姿が見えなかったのですけれども…。出席した委員一同は、ここ一番脚下照顧、専門分野、年齢、人生経験、性格その他諸々の相違があるうとも、そんなものはクロスオーバーして伝統ある西多摩医師会報を編集しようとアルコールを踏まえて誓い合ったようです。私自身も会報4年生まだまだ青い、醜く生き残るよりも美しく滅びるなんて発想も結構と思いますが、編集委員会はポーランドの連帯ほど厳しきなんてものは全然ないし、ドロドロしたりグズグズしたりしているホルモン料理の様に、又格別の味があって結構おもしろい所なんて居心地よく頑張っています。忘年会の様子ですが、定刻と思われるころ委員中抜群の服飾センスの鈴木先生は、ワインレッドの上質な皮上衣にその身を包み、大奇弁論者である時の

(8)

人を優しく引率してやって来ました。ジャックは出席する事を大変躊躇した旨皆に告げると「俺が来いと言ったのだ、誰も文句を言わさん。さあ愉快地にやろう」と力強い委員長の声は、109号深更の修羅場で「あー困った」の連発で頭をかゝえての極度の脳症状態とはまるで別人のような変貌に、私の期待は完全に裏切られてしまった。何故ならば格闘の場面を予想してボラロイドカメラを用意していたものだから……。

かくて酒精による精神昂揚もあってか日頃委員会で、新しい医療のありかたとか医業経営の実際を私達に示唆してくれる高木直院長は、桂木先生の医歴女歴の数々を拝聴して「ハハアなるほどこれで先生がわかってきた」などとジャック謎の解明に楽しい時を過している様子。他方或る人物に全学連と極言された(言った奴こそ全愕連なのだが)某氏はと見ると、水割をうまそうに大人のムードでチビリチビリ、機会があったらゆっくりと広報会報分離論でも私とやってみませんか…。もっとも任期という寿命もありますので愚図は止めよう堀田先生、宴たけなわとなり堤先生はまさにシャンソンと思われるサン・トワ・マミーを準仏蘭西風に唱いあげ、桂木先生はいつもと違って純神土風に武田鉄矢とはひと味違った贈る言葉などキッチリ全歌詞を唸ったりして、仲々得がたい一夜でした。数ヶ所に亘る放言的表現をしまして恐縮ですが、お正月の屠蘇気分でお許しの程を…。

(文責 道又 正達)



愉快的仲間達
(ボラロイド撮影)

昭和57年1月1日

発行所 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL(0428)23-2171(代)

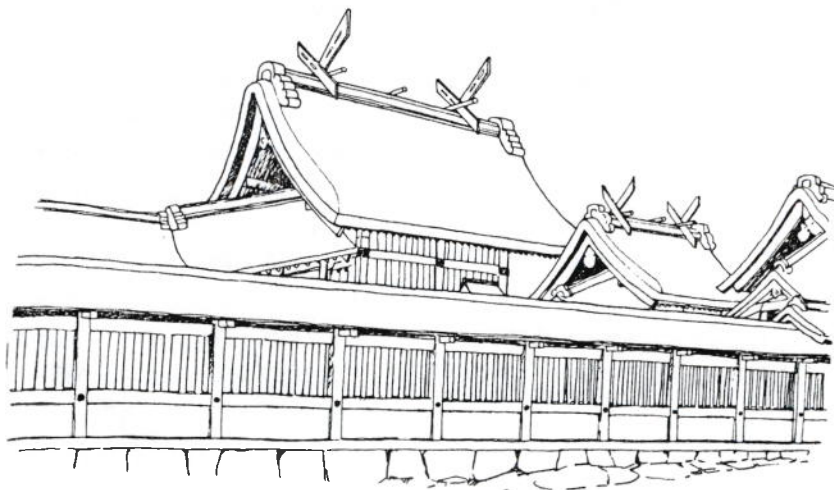
会報編集委員 堤 次雄

植田 稔 桂木 真 川辺 隆道

菅井 義久 鈴木 修 高木 直

堀田 洋夫 道又 正達

印刷所 マスダ印刷 TEL(0428)22-3047



臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町3-17
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
 - 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
 - 関係医療機関 約 3,500ヶ所
 - 広範囲な検査内容
 - 内分沁学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査
- ↓ 都川県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。



中央臨床医学研究所

〒197 東京都秋川市雨間 5 2 3

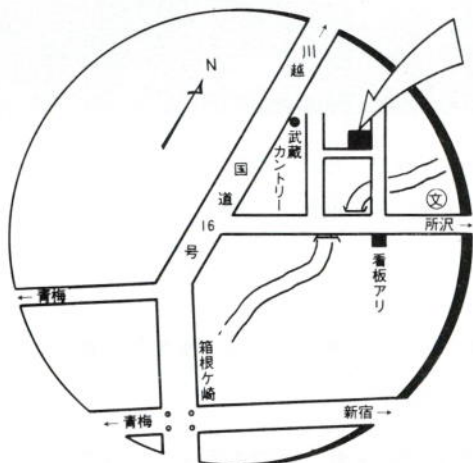
TEL 0425-59-4843

正確で信頼性の高い臨床検査

- 検査内容 ■ 日常検査 生化学検査 / 血清・血液学検査他
- 特殊検査 内分沁学検査 / ウイルス検査
免疫学検査 / 病理組織学検査他
- 集団検査 小・中学生検査 / 成人病セット検査

期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

Cardioprotective

… ストレスから心臓を保護します。

Trasacor[®]

トラサコールは、 β -受容体遮断作用のほかに、やや穏やかな膜安定化作用と本剤固有の内因性交感神経様作用(Intrinsic Sympathomimetic Activity: ISA)を有する不整脈・狭心症治療剤で、過剰な交感神経系の刺激から心臓を保護します。

新発売



不整脈・狭心症治療剤

トラサコール[®]

錠20mg・40mg CIBA